

禪庭花

綿棗兒

〔武江產物志藥草〕道灌山ノ產 葱草

〔佐渡志物產〕薑草 方言ギボキナ 野生ナリ、初生ノトキ賤民採テ菜トス、
〔和漢三才圖會濕草九十四本〕禪庭花 俗稱不詳

按禪庭花高二三尺、葉似薑草而纖、六月開花、黃色帶微赤、單葉似百合花蓋、薑草之種類乎、
〔物類稱呼三生植〕綿棗兒つるば 山城にてつるばといふ、筑紫にてすいべら、又たんばんぐはると
云、江戸にてうしのふし、又牛うらうと云、田野に多く春宿根より生ず、夏に至て藤色の穗の如く
なる花、さく翁ぐさの花に似たり、高さ四五寸、根は水仙の如し。

〔大和本草雜草九〕綿棗兒 野圃ニ多ク自生ス、葉ハ薤ニ似テ、若キ苗ハ紫色ヲ帶ブ、冬モ葉アリ不枯、
ツルボハ京都ノ方言也、筑紫ニテハズイヘラト云、根ハ水仙ノ如シ、救荒本草曰、一名石棗兒、根ハ
獨頭蒜ニ似タリ、花ハ莧ノ穗ニ似テ淡江微帶紫色、其子小ニシテ黒色、根味甘採取根漆水久煮極
熱食之不換水煮食、後腹中鳴有下氣、國俗ニ婦人ノ積滯アルニ煮テ食スレバ驗アリト云、虛人ニ
ハ不可也、性冷滑ニシテ瀉下ス、飢人食ヘバ瀉下シヤスク、身ハル、ト云、故ニ凶年ニモ多ク食ハ
ズ、水ヲカヘテ久シク煮レバ無害、村民不知之、是ヲスミレト云ハ誤レリ、水ヲカヘテ久ク煮ル事
ヲ貧民ニ可教、

〔廣益地錦抄五〕綿棗兒 田野に多く宿根より生ズ、根も葉も山慈姑のごとく、春生夏藤いろなる
穂のことくに花、さくたかさ四五寸のときなさうの花のごとく、根は多くしげりて、畠のさまた
げとなる、俗にウシウロウと云、

〔武江產物志藥草〕上野邊ノ產 綿棗兒 道灌山ニモ

〔倭訓栞前編二十八〕ほと、ぎす○中 山艸の名にもいへり、小紫花斑文杜鵑羽に似たるをもて
名く、葉に點あるを山ほと、ぎすといふ、三黑艸なりといへり、黄花のものあり、